

# 生と死をつなぐケア

老いとぼけに関わるヒトの世界は、真面目で滑稽な出来事であふれています。そこから創られる介護に希望はあると思います。27年目を迎え、ふたつの宅老所とひとつの特養を運営する「よりあい」の現状とこれからの、たっぷりご報告します。

2019年 10:30  
日時: 9月18日(水) 16:00 **盛岡会場**

会場: アイーナ (いわて県民情報交流センター)  
(岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1) (会議室501B)  
☆JR「盛岡」駅より徒歩4分

受講料: 7,000円

2019年 9:30  
日時: 9月19日(木) 14:30 **仙台会場**

会場: トークネットホール仙台  
(宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1) (第5会議室)  
☆地下鉄南北線「勾当台公園」駅下車「公園2」  
出口から、徒歩10分

受講料: 6,000円

**【講師】**  
(むらせ たかお)  
**村瀬 孝生**



特別養護老人ホーム「よりあいの森」施設長。  
1964年、福岡県飯塚市生まれ。東北福祉大学を業後、特別養護老人ホームに生活指導員として勤務。1996年から、「第2宅老所よりあい」所長を務める。2015年4月より現職。著書に『ほけてもいいよ』(西日本新聞社)『看取りケアの作法』(雲母書房)など多数。

プログラム  
(昼食・休憩あり)

## 生活を共に創る — 主体を大切にするケア

キーワードは「わたしとあなた」、「生身の主体」、「わからない」、「合意」、「自由」。今日の私は、昨日の私と同じではありません。プランと標準化された介護は、お年寄りと介護者を過去に縛り付けてしまいます。介護される側もする側もイキイキしたい。お年寄りと一緒に今日を創りましょう。

## 作業からの脱皮 — ひとりに添うケア、集いを楽しむケア

スタッフの中心的な仕事は、お年寄りのそばに一緒にいること。一緒に美味しいお茶を飲み、一緒に食べる時間を楽しむこと。集いによる「場の力」は個別ケアを豊かにします。介護を作業にしないために大切なことは、現場裁量とスタッフの柔軟なチームプレーです。

## 介護を地域に還す — ひとりを支援するケア

とにかく施設に鍵をかけません。行動を抑制するために薬漬けにすることもしません。そのためには、施設から外に出て歩くお年寄りの見守りを、地域住民のひとりひとりをお願いします。その積み上げが地域ケアを創る可能性を持っています。さらに、地域ケアは労いを生むのです。

## 看取りケアの作法 — 暮らしの中にある死

看取りは、あくまで暮らしの延長線上にあります。スタッフは合宿しながら、その臨終を家族と共有してきました。日頃から五感をフルに活用して「体を触る介護」は、寿ぎのある死に着地します。医療からもっとも遠い場所でこそ、人間的な看取りが可能となるのです。

**主催** **なるほどケア塾** お問い合わせ  
〒189-0011 ☎042-306-3771  
東京都東村山市恩多町3-39-13-101 榎窓社内

\*受講料はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡さし上げます。  
\*受講料は当日会場で承ります。

お申し込みはこちらへ Fax

**Fax: 042-306-3772**

<参加者名> *施設の場合は施設名もご記入ください。		9/18(水) 盛岡 ( )名	9/19(木) 仙台 ( )名
<住所>〒 (自宅・職場)			
<TEL>		<FAX>	